

相模原南児童ホーム通信

発行日:2022(令和4)年3月10日

発行:社会福祉法人 中心会 相模原南児童ホーム
相模原市南区新戸905-1 TEL:046-251-5590
URL <http://sagamihara-minami.chusinkai.net/>
Email: sagamihara-minami@chusinkai.jp
発行責任者:曾我幸央



里親ってなあに?

様々な事情により親や家族と一緒に暮らせない子どもがいます。このような子どもを家庭に迎え入れ、愛情と理解を持って養育して頂く方が里親さんです。
一人でも多くの子どもが、温かい家庭の中で暮らせるように里親さんとして活動して頂ける方を求めています。

里親の活動は様々あります。

何かできないかな? 何かできるかな? と思ったら、お気軽にご相談ください。

相模原南児童ホーム 家庭養育支援センター(担当:おさだ・ひらやま)

電話:046-251-5590

メール:sagamihara-minami@chusinkai.jp



里親登録までの実際の流れ(R4年度前期の場合)



※里親登録は年2回行います(前期研修5月~・後期研修10月~)

研修受講希望の方は、遅くとも研修開始の2か月前までにご連絡ください

里親研修のお問い合わせ 相模原市児童相談所 ☎042-730-3500

コロナ禍のコミュニケーション

相模原南児童ホーム 所長 曾我 幸央



コロナ禍において、「新しい生活様式」として、オンラインでの授業、打ち合わせ、会議、研修が当たり前の様になり、パソコン1台あれば自宅でも気軽にコミュニケーションが取れるようになりました。一方で、感染症防止のため、マスク着用が当たり前になり、マスク着用によるコミュニケーションの弊害も保育や養育の現場では起きています。養育者が口元を覆ってしまっているために、子どもたちと信頼関係が築きにくい、また、養育者の顔や表情が赤ちゃんに見えないために、感情や言葉が読み取れず、言葉の遅れなど子どもたちの発達に影響が出ているといった問題もあがっています。

を取る工夫をしています。言語を獲得する一番大切な時期だからこそ、これからも丁寧に子どもたちに関わっていきたく思います。

先日、厚生労働省が、児童養護施設で生活する子どもの自立支援の年齢制限(18歳)を撤廃するという報道発表がありました。「自立」は年齢でできるものではなく、個々によって「自立」の時期は違うため、年齢制限を撤廃するということは子どもたちにとっても大変良かったと思います。

児童養護施設では今春、3名の児童が高校を卒業と同時に卒園を迎えます。3名共に進路は就職ですが、長年、住み慣れたホームから離れることは新しい生活の期待よりも不安の方が大きいかもしれません。

卒園後も、気軽に相談ができたり、故郷(居場所)として、いつでも戻って来れるような支援をこれからも継続して行ってきたいと思います。

乳児院では、マスクとフェイスガードを併用し、子どもたちに大人の口の動きを見せながら子どもたちとコミュニケーション

砂場の砂をご寄付いただきました!

鹿島道路株式会社横浜支店相模合材製造所所長小野塚様より砂場の砂をご寄付いただきました。トラックの荷台から砂を降ろしている様子を見て子どもたちも大喜びでした。

毎日、砂場で楽しく遊んでいます。小野塚様ありがとうございました!
(乳児課 栗原)



ご寄付お礼 [2021年10月~12月]

米澤 崇様/株式会社セクメット 瀬戸 誠様/サンラッキー相模原店様/中臺 博様/日広建設株式会社 代表取締役 中山 智晃様/有限会社 鎌田乳業様/鈴木 由郎様/三橋 義昭様/株式会社 トーエル様/真崎 桂子様/高橋 宏康様/門倉 松雄様/井本 剛司様/ナミエル様/三輪谷 さくら様/株式会社 まるしげ不動産 荒川 磁良様/株式会社 三光ホーム 豊崎 道則様/國分 司様/相武台リハビリデイサービス様/ビーグレンのお客様へ様/鳥海 尚之様/さがみの里親会様/HOLUDONA株式会社様/坂本 龍馬様/全国チャンメリー協同組合様/森谷 三枝子様/ほっともっと様/会田 吉美様/一般社団法人 わたしのSDGs 代表理事 小松 文乃様/株式会社 たいまつ食品様/日本ベビーフード協議会 事務局長 浅見 太一様/ドミノ・ピザ相模が丘店様/株式会社 カレンズ 代表取締役 木村 仁様/公益財団法人 毎日新聞東京社会事業団様/株式会社スマイル 代表取締役 井上 廣一様/渡邊 正男様/株式会社 トムス・エンタテインメント様/株式会社 SL Creations様/匿名1名 熱いご支援、ありがとうございます。

苦情・要望について

地域の方より、ホームページに新型コロナウィルス感染症の感染状況を掲載したところ、「個人情報を守るため、情報を拡散しない方がよいのでは」とご意見をいただきました。

— ご回答 —

情報提供につきましては、児童の個人情報を守るために、個人が特定できないように最大限に配慮した上で公表させていただいており、公表文書は個人情報の漏洩にあたらぬと当事業所では考えております。

今後も地域住民の皆様のご意見に耳を傾けながら事業所の運営を行ってまいりますので、ご指導・ご鞭撻をいただけますようよろしくお願いいたします。



初詣に行きました

少しだけ制限が緩み外出できるようになったのも束の間、またすぐに制限されてしまうといった環境が続きます。毎年恒例の行事でも密を避けるために日程を考慮しながら行わなければならないため、初詣も三が日を避けて平日に行きました。二拝二拍手一拝の作法なども、子どもたちと一緒に調べて一緒にやりながら教えていきます。以前のような当たり前と同じようにはなかなか過ごさせてあげられませんが、時世のことも考えながら出来る限り変わらない生活をさせてあげられるように意識しています。駅を越えての参拝に往復1時間程度歩きましたが、久しぶりの外出に子どもたちの喜ぶ姿がみられました。午前中から体を動かして外の空気を吸い、今年一年を楽しく過ごせるようお祈りしています。(児童課 吉田)



毎年恒例「節分豆まき」を行いました



相模原南児童ホームでは季節の行事を大切にしています。直近であった行事として節分があります。相模原南児童ホームでは行事に合わせた食事のメニューが出ます。行事のメニューを通じて子ども達は食育と言う角度から行事に触れることが出来ます。今回の節分における夕食のメニューでは、鈴木由郎様より恵方巻(助六セット)を寄付していただきました。子ども達の中には恵方巻の存在を知らない事もあり、子どもに教え伝える事で、子ども、職員共に恵方巻を何故食べるのか、恵方巻を食べる事にどのような意味が込められているのかを学ぶことが出来ました。

食事風景としては、職員が「お話をしないで恵方巻を食べたらお願いが叶うんだよ」という願掛けを教えると、年齢問わずみんな無言で食べていました。その間にも食べている人を笑わせようとしていたり、いつものようなお話がたくさんで楽しい食事風景とは違った無言で賑やかな食事風景が見られました。この度は恵方巻を寄付していただきありがとうございます。おかげ様で最初から最後まで楽しい節分を過ごす事が出来ました。(児童課 野口)

子ども達に沢山の経験をさせてあげたい、という願いを込めて、職員は様々な行事を計画します。その中には、年中行事も含まれます。数多くある年中行事には、昔の人々が培った生活や知恵に触れる機会となり、何百年と受け継がれてきているものもあります。

最近では、2月3日に節分がありました。今年は寄付で頂いたものに加え、自分たちでも恵方巻を作りました。各々好きな具材を入れ、作り終えた子どもから「北北西」を向き、願い事を込めて無言で食べ進めます。なかには、具材があふれたり、一気に食べきれず悔しがったりする子どももいます。食べ終えると、みんな満足そうに笑顔を浮かべていました。

恵方巻を一気に食べ進める、ということは、単に昔の人が考えたことかもしれませんが。こういった昔ながらの行事となると、子ども達は「古くさい」「昔の人の考えなんて知らない」と考えることが多いと思います。しかし、たとえ由来や目的を理解していなかったとしても、今回の子どものように、みんな楽しく、同じ時間を過ごすということにも意味があると強く感じます。(児童課 二瓶)



毎年恒例「児童課 節分豆まき」を行いました。

各ユニットでは、子どもたちに今日豆まきを行う事を伝えると「よし!鬼を倒すぞ!」と意気込んでいる子もいれば、「鬼怖い」と不安そうな表情を浮かべる子もいました。幼児ユニットでは、いざ鬼が出現すると「鬼は外!」と元気いっぱいに豆をなげる子が沢山いました。去年が怖くずっと職員の横で泣いていた子どもたちが、今年は勇気を振り絞って「鬼は外!」と豆を捲くことができ、子どもたちの成長を感じられました。

男子ユニットと女子ユニットでは豆を持った子どもたちが待ち構えており、鬼が現れた途端に無数の豆が鬼目掛けて飛んでいき、鬼は早々にやられてしまいました。

こういった行事は、子どもたちの成長や普段とは違う表情などを見ることが出来るため、大切にしていきたいです。(児童課 伊藤)



今年は豆まきの為に三方の制作をした事もあって子ども達はやる気十分。豆まきの準備をしていると「早く行こうよ。おにさんに豆投げるよ。」と笑顔で言っていたのですが、実際に玄関の前で職員が扮する鬼が来ると、やはり怖いようで泣いている子もいました。それでも夢中で豆を投げ続けている子もいたのでそれを見て泣いている子と一緒に豆まきが出来ました。その後の鬼さんとの記念撮影は怖かったようですが、前々から何度も話をし、制作もしていたためか例年より鬼を怖がらずに豆まきが出来たように感じました。今後も伝統行事に親しめるようにしっかり準備して子ども達が楽しめるようにしていきたいですね。今年も子ども達が寒さ、暑さに負けず元気に沢山遊べますように。(乳児課 金井)

職員だより



コロナ化の影響下にあっても、職員が楽しく過ごす工夫を考えながら、子ども達と共に過ごしている様子について

やる事も尽きてしまい子どもたちも職員も何をすればいいかわからない状況の中、私たち職員が得意な物を子どもたちと共有する事で楽しい時間を作れるのではないかと考えたようになりました。南児童ホームの職員は運動が得意でその中でもサッカーを得意とする職員が多くいます。それゆえ男の子、女の子年齢問わず週末は人が少ない河原のグラウンドに連れて行き、サッカーゴールを設置した中で対決をしています。ただ対決するのも楽しいですが、ユニット対抗などで勝ち負けを決めるなど盛り上げながらやる事で楽しさも倍増し、良い運動、良い時間を過ごす事が出来ています。子どもたちにも溜まっているストレスを発散できる場を設けてあげる事で一緒に良い時間を過ごせていると思っています。(児童課 関)



コロナ以前にはショッピングモール等に行けていましたが現在は行けていない為人の少ない野外に行き風あげをしたり子ども達の好きなお菓子を持って行っておやつを食べたりしています。近くの公園にも行きますがたまに少し遠くの公園に遊びに行く事もあります。いつもと違う風景が見れる為子ども達も喜んでくれます。

室内では、テレビを見る際に部屋を暗くして映画館のように見立ててテレビを見るなどの工夫を行なっています。

又、季節の行事はどれも大切にしています。

一つ一つの行事の意味をその都度、子ども達に話して教える事で昔からの行事や遊びを通して子ども達が文化を学び、大人になった時に私たちが教えた事を思い出して受け継いでくれたらいいなと思っています。

コロナ禍で色々制限がある中ではありますが楽しむ工夫を日々考えながらこれからも子ども達と過ごしていきたいです。(児童課 中川)

コロナ流行以前は外に気兼ねなく散歩に行き、子ども達は身体を思いっきり動かす遊びが多かったのですが、流行以降は外に出る機会が減った代わりに、室内での制作や「おかあさんといっしょ」の歌に合わせて踊る機会が増えました。最近で言えば、節分の豆入れや鬼のパンツを子ども達が職員と一緒に作り、それを節分当日までユニットの壁に飾っていました。食事中などに子ども達がふと思いついたように、「あーっ」とその制作物を指さした後にニコッと笑う可愛い姿も見られ、職員も子ども達の制作物の企画に力が入ります。

また夕食後に「おかあさんといっしょ」をつけると、皆が大好きな「からだダンダン」の歌まで早送りして一っ、と急がしてきます。「からだダンダン」を付けてと笑顔で踊り出しテレビの声に合わせて「ごーごー」と楽しく声を出しています。

制作物や踊りの機会を意識して増やした結果、子ども達はコロナ以前と変わらず、楽しく過ごしています。(乳児課 佐伯)



相模原南児童ホーム乳児課では今年度より、子ども達の遊びが充実できるよう毎月遊びの運営計画を行っています。それぞれの職員が、お互いに意見を出し合い計画し高月齢児のクラスと低月齢児のクラスに分かれて遊びを行っています。2月には、高月齢児のクラスでは節分の季節にピッタリな鬼のかわいいバックを制作しました。

一人ひとりが楽しみながら赤鬼と青鬼を作り完成したバック大切に持って豆まきを行いました。(乳児課 榎本)



入職のごあいさつ



2月から相模原南児童ホームの乳児課に配属となりました佐藤久美です。以前は、学童で働いていました。これまでは放課後を過ごす小学生と関わってききましたが、密に子どもの生活や成長を支援する仕事がしたいと思うようになりました。

乳児の保育経験はありませんので、分からないことだらけで不安もありますが、先輩方にご指導いただきながら、多くのことを学び吸収し、子ども達のためにそして施設のために出来ることを増やしていきたいです。一日でも早く仕事に慣れていけるよう頑張ります。(乳児課 佐藤)